

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

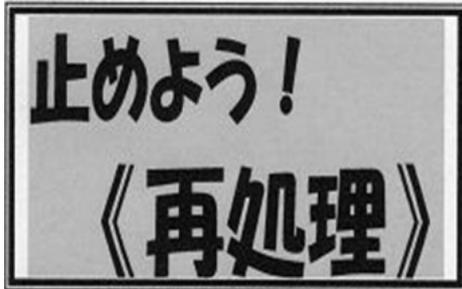
郵便振替 02240-5-102650

《再処理／岩手の環境》

<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2011(平成23)年

2月3日

第93号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

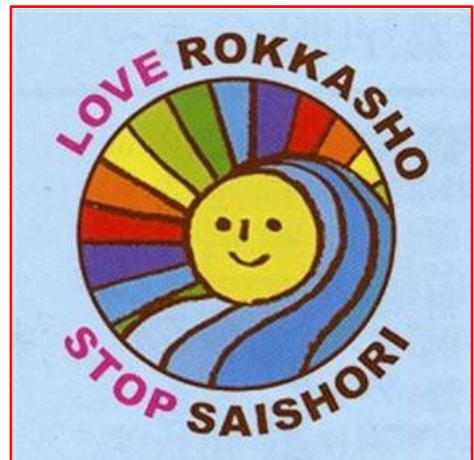
第2回 六ヶ所村ラブソディ- 2.26~27 仙台

東日本市民サミットへ集まろう

再処理工場2年延長を無期限延期へ!
~今こそ繋がりが動くとき~



前回の盛岡集会
「しゃべり場」の風景



盛岡から仙台へ

映画「六ヶ所村ラブソディ-」に触発されて、青森の大地を汚染してゆく六ヶ所再処理工場について語り合う「第一回六ヶ所東日本市民サミット」が一昨年の冬盛岡で開催されました。一七〇人の参加による熱気のもと、四つのアクションプランが確認され、それぞれの地域で六ヶ所工場の放射能汚染と闘う行動を追求しました。二年後の今回は、仙台で開催します。

- 再処理ストップ絶好の時
再処理工場はいま、操
- 業計画を二年延期し、運転停止状態にあります。今こそ市民の運動で完全ストップに持ち込みましょう。
- ◇開会
 - ◇分科会
 - ◇再処理をめぐる3つの提起
 - ①経済性
 - ②技術面・放射能汚染
 - ③ぶんぶんカフェ
 - ◇しゃべり場 だれがしゃべるかわからない
 - ◇交流会(軽食付き千円) 事前申し込みをお願いします
 - ◇全体討論
 - ◇分科会での議論をみんなで共有し、実践モードへ!

第2回 六ヶ所村ラブソディ- 東日本市民サミット

2011年2月26日(土) 13:00~20:00
2月27日(日) 9:30~12:30

会場 仙台市市民活動サポートセンター
6階セミナーホールなど

参加費 無料(要申し込み)

主催 六ヶ所村ラブソディ-
東日本市民サミット実行委員会

連絡先 wakamesanriku@yahoo.co.jp

980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目

LC6 わかめの会気付け

FAX 022-728-9781

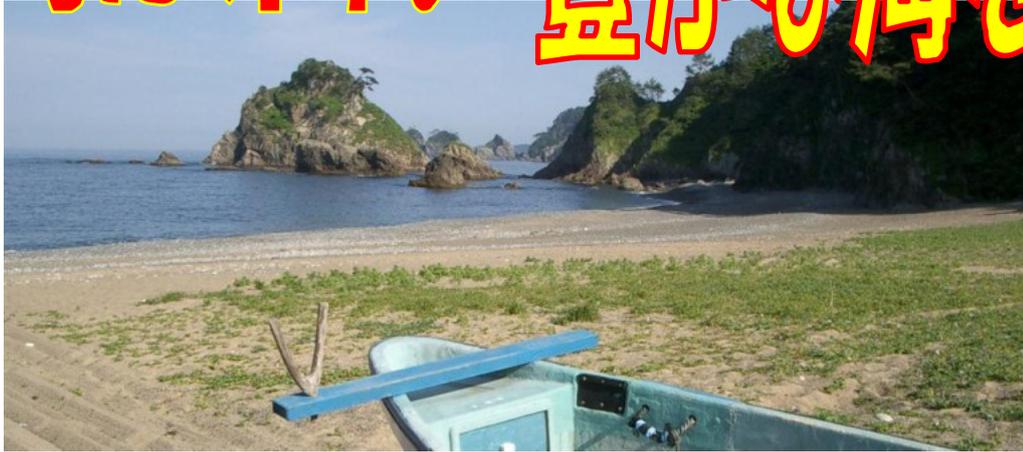
携帯 090-8819-9920(たてわっきー)

*ホームページまたはファックスで

- ①サミットへの参加
- ②交流会への参加
- ③2次会への参加
- ④宿泊希望の申し込みをお願いします

<http://lmswkm.net/summit>

海は末代！豊かな海を守ろう



豊かな三陸の海を守る会 創立五周年

記念集会

「豊かな三陸の海を守る会」は一月一六日(日)宮古市崎山の陸中国民休暇村で、会員二十余人を集めて、創立五周年記念集会を開催しました。

同会は、豊かな三陸の海を、放射能などの環境汚染から守り、清澄なまま末代まで伝えるために、二〇〇五(平成一七)年十一月五日に結成されました。「海を守る」という目的に賛同する会員は、漁業者、農業者、野鳥の会員、生協組合員、主婦、市議、町議など多様な立場の人々が参加し、現在一二五人を数えています。

祝賀会に先立ち、盛岡の「岩手の会」世話人の永田文夫さんが「六ヶ所再処理工場周辺の放射能汚染」公的データから見えてくるもの」と題して講演しました。

安心安全の海産物を守る活動

会長挨拶では、「五年前、六ヶ所工場が本格操業すると放射性廃液が流され三陸の漁場は大打撃を受ける」という内容の東京海洋大学の水口憲哉先生の講演会を開催して以来、会を結成し、海を守るために学習会や署名活動、市民集会映画会、さらには「放射能を海に流すことを規制する法」の制定を求め、市町村議会請願・国へ



壁には『天恵の海』拡大パネルが展示されました。

の陳情などの運動を続けて来た。政治的党派を超えて三陸沿岸住民の共通の願いとして運動を進めてきた。新年にあたりさらに前進したい」と語りました。

自然災害なら復興可能、しかし放射能被害は末代に及ぶ

乾杯の後、三陸の海産物料理を会食しながら、出席者全員で新年の挨拶をかねて、「三陸の海」を守る運動への思いを語り合いました。

その中には「今回の年末年始の三陸を襲った高波で重茂等の漁民は二十億円以上の被害を受けた。大変なことではあるが、自然災害は努力すれば復興できる。しかし、放射能はそうはゆかない。六ヶ所工場の放射能が三陸の海の生態系に取り返しのつかない被害をもたらす前に、このまま是非止めたい」という漁業者からの声があり共感を受けました。休止状態の再処理工場を今こそ止めようと決意を固める意義深い集会でした。(尚)

「電力政策大綱」パブリックコメントに 応募しよう

応募しよう

▼内閣府原子力委員会
は、現行の原子力政策大綱に代わる新たな大綱を策定すべく議論を本格化させ、一年かけて確定するという。▼二〇〇五年に策定された現大綱は、原子力発電を基幹電力と位置付け、プルサーマル発電や核燃料サイクルを進めるとしている。昨年、同委員会が現大綱の見直しの是非をめぐって国民から意見を求めたところ、二〇〇五人の回答者の内約九割までもが現大綱の見直しが必要だと答えた。▼トラブル続きの六ヶ所再処理工場の現況や柏崎刈羽原発が中越沖地震で大きな被害を受けたことを知った国民の当然の反応である。

▼「原子力委員会」ホームページ冒頭にある「新しい原子力政策大綱の策定について」をクリックすると「メール」やワードの「様式」が出ます。FAXや郵送でも可です。大いに意見を出そう。